

2026 四方山話(03)

2026年 7月10日(金)

「川中島の合戦 ！」 (資料は甲陽軍艦より)

9月10日 朝6時、霧が動き始めた

信繁「霧が動き始めましたな・・・」

「もうじき、山の上で合戦が始まる時刻だが・・・」

信玄「・・・なにか見える」

ゆるくなった霧の中に、大きな「毘」の旗が揺れていた

信繁「あれは、毘沙門天の旗・・・謙信の旗でございます」

信玄「裏の裏をかかれたようじゃな

信繁、今日は、厳しい戦になりそうだ・・・」

目の前に上杉の「毘」「龍」の旗が見えた

その途端、上杉の猛攻撃が始まった

鉄砲の一斉射撃を合図に

騎馬隊が先頭になり、何度も攻撃を繰り返し

押し寄せてきた

信玄「陣を守れ、決して前に出るな」

「山からの援軍が来るまで、陣を支えよ」

信玄の命を、「ムカデ隊」の馬が伝える

飯富三郎兵衛が正面で食い止める

信繁隊と諸角隊も、右左の前面に出て

食い止める

上杉の激しい攻撃が続く

内藤隊、防ぎきれず川を渡って逃げる

義信隊の前が空き、思わず

義信が前に出た途端に、

上杉勢に包囲される

信繁「私がまいります」

信繁隊が助けに行くが、

信繁は、越軍に囲まれ鉄砲と槍を受ける

諸角隊も崩れる・・・

乱戦の中、山本勘助 戦死

「ムカデ隊」の馬が走り廻り、本陣に報告に来る

「山本勘助殿 討ち死」

「諸角豊後殿 討ち死」

信玄、唇を噛み動かず

「初鹿野傳左衛門殿 討ち死」

「典厩信繁殿 討ち死」

信玄、目がぎょろりと動く

信繁・諸角の「首」上杉勢に持ち去られる

1 2 段の守りのうち、9 段まで崩される

本陣にいた諏訪衆が動く

「諏訪法性の旗」20 流に囲まれた

4 人で担ぐ「諏訪」の大太鼓が前に進み、

童子が飛び乗り打ち鳴らす

武田の守りが、少し蘇る

1 0 時 妻女山の部隊が川中島に下りてくる

「ムカデ隊」の馬が走る

「お味方来たる、甲軍、きびすを返せ」

立場が逆転し、謙信は撤退を決める

山から下りてきた高坂・馬場・真田隊が、

越軍を北に追い立てる

謙信「今日は、ここまでだな」

「善光寺まで引け」

1 1 時 上杉隊、一斉に引き始める

謙信・白馬で信玄の本陣を突っ切る

馬上から、信玄に「数太刀浴びせる」

信玄、鉄の軍配で受け止める

刀は、肩をかすめ 信玄負傷

血が顔に飛び散る

謙信、馬の尻を槍でつつかれ、そのまま引く

武田軍、犀川まで追うも、引き返す

信繁・諸角の「首」を家来達に取り返す

午後 4 時 武田軍、八幡原で勝ちどきを上げる

信玄、信繁の遺体にすがって号泣・・・

合戦の後、信玄は、川中島の鶴巢寺に、信繁を弔う

その後、この寺は「典厩寺」と呼ばれた

【追伸】

この合戦は、日本の合戦史上最も激しい戦いだった
死傷者の割合が、圧倒的に多い

上杉勢	戦死者	3,500 名	負傷者	6,000 名
武田勢	戦死者	4,500 名	負傷者	13,000 名

(関ヶ原の合戦では 両軍合わせて死傷者 9,000 名)



3月に行った、台東区「真先稻荷神社」の天井絵
左が信玄、右が謙信